

第7回国際会議等の北海道開催の推進に係る各省庁連絡会議 議事概要

1. 日 時：平成 25 年 7 月 31 日（水）13:30～14:30
2. 場 所：中央合同庁舎 3 号館 8 階国際会議室
3. 出 席：〔省庁〕内閣官房、内閣府、公正取引委員会、警察庁、金融庁、消費者庁、総務省、公害等調整委員会、法務省、外務省、財務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、環境省、防衛省、人事院、会計検査院
〔北海道〕柴田北海道総合政策部長、山澄北海道総合政策部知事室次長
〔国土交通省北海道局〕高松局長、桜田参事官、北田計画推進企画官、熊谷開発専門官
〔国土交通省観光庁〕上村コンベンション振興指導官

4. 議事次第

(1) 開会

(2) 議事

- 1) 「国際会議等の北海道開催の推進に係る基本方針」の改正について
- 2) 向こう 5 年間の国際会議等の開催計画等について
- 3) M I C E 誘致・開催の取組について（観光庁）
- 4) 北海道における国際会議等開催の状況及び北海道の取組について（北海道）
- 5) その他

(3) 閉会

5. 議事及び主な発言内容等

1) 「国際会議等の北海道開催の推進に係る基本方針」の改正について

＜資料 2－1～2－2 について事務局より説明。＞

- ・観光立国に関連する計画の策定等を踏まえ改正を提案するものである。
＜改正について異議無く了承。＞

2) 向こう 5 年間の国際会議等の開催計画等について

＜資料 3－1～3－3 について事務局より説明。＞

- ・平成 24 年度の国の機関等による国際会議等の開催実績は 9 件であった。
- ・平成 25 年度以降、向こう 5 年間の北海道における国際会議等の開催計画について、平成 25 年度は開催済みを含めて 8 件、平成 25 年度以降は 4 件の開催が予定されている。
- ・日本国内における開催地が未定である会議については、今後、北海道開催を積極的に検討していただきたい。
＜資料 3－4 について事務局より説明。＞
- ・各省庁における個別の国際会議等の担当者と道内 5 都市等の国際会議等誘致担当者が実務的な情報交換を行う場を平成 24 年 11 月に設けたところである。
- ・各省庁から 14 の国際会議等の担当者の参加を頂き、このうち 4 つの会議については北海道での開催が決定している。各省庁の御協力に感謝する。
- ・本年も秋に開催を予定しているので、各省庁のご協力をお願いする。

<資料3-5～3-6について事務局より説明。>

- ・北海道局で平成24年度に「北海道の中小都市等における国際会議等の開催促進のための基礎調査」を実施した。札幌以外の都市においても国際会議等の開催を促進していくことが必要との問題意識で実施したものである。内容については時間の都合により説明を省略するので、資料をご覧ください。
- ・平成26年に苫小牧市でブルームボールの世界大会が開催される。このようなスポーツイベントの開催促進も重要であると認識している。
- ・2月よりシンガポールにおいて北海道情報番組の放送が開始された。東南アジアにおける北海道の知名度の向上により、MICE誘致に好影響があるものと期待している。

3) 観光庁におけるMICE誘致・開催の取組について（観光庁）

<資料4について観光庁より説明。>

- ・2012年に日本で開催された国際会議は世界第8位（ICCA統計より）となった。アジア域内の競争は激化しており、日本のシェアは一貫して低下している。都市別では東京が世界で31位、アジア・大洋州では8位である。
- ・観光庁のMICE関連施策として、グローバルMICE戦略都市の育成、ユニークベニユーの開発・利用促進、アンバサダープログラム導入の支援を行っている。また、政府内の連携強化により効果的なMICE誘致に望みたいと考えている。さらに、資料にはないが、25日に観光庁及びJNTOにMICE相談窓口を開設したところである。

4) 北海道における国際会議等開催の状況及び北海道の取組について

<資料5に基づき北海道から説明。>

- ・北海道の中で札幌市の占める位置は高いが、札幌以外の道内主要都市にもバックアップ体制がある。また、相互に連携をしている。
- ・交通アクセスについて、北海道は東アジア主要都市とは概ね直行便で結ばれているとともに、羽田・成田との便が頻繁に就航しており、国内の他の地方空港と比較して遜色ないものになっている。
- ・札幌コンベンションセンターをはじめ、会議を行うキャパシティーを有する施設が各所にある。また、函館山ロープウェイ山頂施設等のユニークベニユーも有している。さらに、特色のある食・自然・文化を有しており、エクスカージョンなどの有力な選択肢と成りえる。
- ・「北海道コンベンションガイド」として多言語によるウェブサイトを開設している。

以上

(速報のため、事後修正の可能性がります。)